

クリスマスバスケットバザー 2025.11.23

第33回クリスマスバスケットバザーは、生徒主体の運営のもと、3000人を超えるお客様を迎えて盛大に開催され、本校の原点である奉仕の精神を体現する一日となりました。



今年のコンセプトは” Reflect ”でした。実行委員長によれば、「自分たちの小さな頑張りが大きく世界に反映し、人ととのつながりがエンドレスに続いていくように」という願いを込めた」ものだそうです。またそのロゴは「反映」と「エンドレス」を表すばかりでなく、本校のマークにある星の一部や、蝶のように世界中に幸せを飛ばすことをイメージして作られました。

①クリスマスバスケットバザーの由来

このバザーをわざわざ「クリスマスバスケットバザー」と呼んでいるのには理由があります。

終戦直後で日本に経済的なゆとりのなかった1950年に本校は創立されました。そのためカナダをはじめとする外国の市井の人々からのご寄付が本校創立にたいへん役立ちました。その1950年の冬、当時の校長が「自分たちができることでご恩返しをしよう」と生徒に呼びかけます。生徒たちは自分が大切に使っていた服や日用品を差し出し、それをバスケットに詰めてリヤカーに乗せ、近隣の児童養護施設などに届けました。それがクリスマスバスケットの始まりです。

やがて集めるものは「もの」から「お金」に変わり、次第に本来の意味が忘れられていきました。その中で1993年、木セ修道士（その翌年に校長就任）が、クリスマスバスケットの原点に立ち返ろうと呼びかけて始まったのがバザーです。それ以来、この行事は「クリスマスバスケットバザー」と呼ばれて毎年行われ、今年33回目を迎えました。このような由来があり、収益金は全額、国内外の支援を必要とする人々に届けられます。

②ボランティア精神

クリスマスバスケットバザーの精神の根底には、「信頼」「隣人愛」「奉仕の心」を育てたいという聖ラ・サール（1651–1719）の思いがあります。この行事はその実践です。そのため、全員参加である文化祭や体育祭に対し、クリスマスバスケットバザーは参加を希望する生徒によって運営されますが、毎年多くの生徒が運営する立場でこの行事に主体的に参加し、それ以外でも準備や片付けを手伝ったり、当日に客として来たりして、ほとんどの生徒がこの行事に関わっています。

③当日までの準備

有志生徒が実行委員会を組織し、数ヶ月前からさまざまな準備をしてきました。バザーには生徒（実行委員、ボランティア、文化部の部員、客）、教員、卒業生、PTAや母の会の皆様など多くの人が関わります。実行委員はその各団体と密接に連絡を取り、調整を進めます。本番までに3回にわたって各団体の代表を集めた「全体会」を開き、生徒のセクション長がそれぞれの任務の進捗状況を報告し、その後個別に打ち合わせを行って足並みを揃えました。

実行委員会の仕事は多岐にわたります。商品集め、分類、値付け、箱詰め。学外への発信のためインスタグラム開設、中央駅前などのビラ配布、ポスター製作と掲示依頼。オリジナルグッズの企画・作成・宣伝・注文集め。食品のメニュー決定、原材料の発注、食券販売。イベントの企画、出演者募集と選定。各団体の出店希望調査と場所の調整。雨天の場合の整列・販売方法の検討。美化。・・・等々ですが、実行委員はこれらを分担して誠実に取り組みました。教員も実行委員会を組織し、生徒の活動を支援しました。

本番直前にはテントの組み立てと移動、長机や椅子の移動、商品を本館3階から体育館に移動といった力仕事があり、多くの生徒たちが一生懸命働きました。

このような地道な準備をへて11月23日、バザーは本番を迎えました。

④バザー当日の様子

実行委員たちは7時前から活動し、最後の準備を進めました。前日夕方までPTA面談が行われていた教室は朝一番に整えられました。一方では早くから多くのお客様においでいただき、グラウンドには次々と車が入り、販売会場の前には長い行列ができました。バザー直前の金曜・土曜にPTA面談がありましたので、日曜まで鹿児島に滞在し、このバザーにお越しくださった寮生・下宿生の親御さんもいらっしゃいました。

8時を過ぎるとほとんどのテントで準備が本格化し、スタッフが活発に往来し、商品が並び、料理の仕込みも進みます。

予定通り、午前10時ちょうどに生徒実行委員長の開会宣言でバザーが始まりました。天気が良く、過ごしやすい気温の中、3000人を超えるお客様にお越しいただき、バザーは終始盛況でした。

販売会場の体育館では、混雑防止のため一度にご案内するお客様を80人に絞り、時間差をつけてお客様をご案内しました。レジ担当はボランティアの生徒やお母様方で、にこやかに誘導、計算や袋詰めなどを行いました。その後時間の経過とともに半額セールや9割引セールがアナウンスされ、会場は最後まで多くのお客様で賑わいました。

イベント会場の中庭では漫才、バンド演奏、オークションなどが行われ、こちらにも多くのお客様がいらっしゃいました。体育館と中庭の間にはさまざまな団体による物販テントが立ち並び、どこのテントにも人だかりができます。PTAや母の会のお母様方が手作り品などを販売し、生徒会やOB関係のテントでも様々な品物が売り出され、今回のオリジナルグッズであるペンケースやキーホルダーも順調に売れました。

文化部も様々な活動を披露します。クイズ研究会はクイズ大会を開き、教員戦では観客が廊下にまであふれ、茶道部はお茶会で部員が見事なお点前を披露しました。写真部や美術部・美術科は作品を展示し、囲碁部・将棋部はお客様との自由対局を実施しました。グリークラブや吹奏楽部は演奏会を行い、文芸部・鉄道研究会・数学研究会・マイコン研究部・地歴部などは部誌を売りました。英語ディベート部のディベートや、ロザリオ会のロザリオ作りコーナーにも多くのお客様にお集まりいただきました。

さらには文化祭で好評を博した、本校生徒のアイデアを明石屋様が形にしてくださった創作菓子の販売、山形屋名物金生饅頭に本校の校章が入ったオリジナル饅頭の販売、生徒達が手作りするラ・サールバーガーの販売もあり、いずれも大人気で、お昼過ぎには売り切れました。

この間、実行委員は駐車場の誘導、お客様の案内、行列の管理、食券販売、会場警備、校内美化、放送などそれぞれの持ち場で運営に全力を注ぎました。

⑤バザー終了後

午後2時でバザーは終了しましたが、今度は片付けです。実行委員やボランティアの生徒がテントや長机、教室の机などをもとの場所に戻します。大体2時間半ほどかけて学校は日常に戻り、実行委員の幹部が集合して記念撮影を行い、委員長が挨拶して、笑顔でお開きとなりました。

その後は売り上げを集計し、経費と益金を確定し、それをどこに寄付するかを話し合います。今年は433万円あまりの収益金がありました。第4回全体会ではその報告があり、また委員長以下各セクション長が活動の総括と来年への展望を述べ、各団体からの要望や反省を伺いました。さらに終業式の前に行われるクリスマス祭で、委員長や広報セクション長は全校生徒の前で寄付先の報告や今年度の総括を行います。そこまでに高校1年生から次期委員長や次期セクション長が決まり、クリスマス祭では早速次期委員長が挨拶を行いました。

このように、実行委員の生徒たちは多くの仲間を組織し、様々な大人たちと様々な交渉や調整を行い、当日の4時間のために長期間頑張りました。その経験は、実行委員たちを確実に成長させ、ボランティアとして参加した生徒も、この経験から多くを学んだようです。そして、その精神とノウハウは来年以降のバザーにきっと『反映』されていくことでしょう。







